

引用文献

アンパル野鳥研究会(編), 1989. 石垣島アンパルの研究—野鳥の生息状況調査とその生息環境調査および環境教育にかかわる研究—, 34p.
 比嘉清文, 1996. アンパルの植物. 特殊鳥類等生息環境調査Ⅸ—八重山湿地編—, pp.134-147, 216. 沖縄県環境保健部自然保護課, 那覇.
 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, 179p. 文一総合出版, 東京.

環境庁, 1997. 植物版レッドリスト, 80p. 環境庁自然保護局野生生物課.
 日本植物分類学会(編), 1993. レッドデータブック 日本の絶滅危惧植物, 141p. 農村文化社, 東京.
 沖縄県環境保健部自然保護課, 1996. 沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータおきなわ—, 479p. 沖縄県環境保健部自然保護課, 那覇.

○尾瀬総合学術調査団編集『尾瀬の総合研究』(群馬県環境生活部自然環境課内 尾瀬総合学術調査団事務局発行, 1999年3月, A4版 868p.)

尾瀬は, 国立公園の特別保護地域であり, 通常は研究のためといえども木道外はみだりに立ち入りできない. しかし, その現況と変遷を明らかにして尾瀬に対する科学的理解を深めるために過去2回の総合調査が行われていた. 前回の調査から15年経ったのを機に1994年から1997年までの4年間にわたり第3回目の総合学術調査が行われた. 本書はその報告書で, 研究成果が50編の論文として集録されている.

内容は地質・地理, 生物, 陸水と多岐にわたる. 植物関係では次の9編の論文が集録されている.

- 檜村利道ほか: 尾瀬ヶ原北下田代浮島プラトーの地形と植物分布
- 岩熊敏夫ほか: 尾瀬ヶ原中田代の土壌環境と植生
- 村山恵子ほか: 尾瀬ヶ原におけるオゼコウホネとヒツジグサ(スイレン科)の遺伝的変異
- 谷本文夫ほか: 尾瀬ヶ原における掘水林の種組成および分布特性と地形・土壌との関係
- 前田 顕ほか: 尾瀬ヶ原におけるヤチヤナギの生態学的研究
- 金井 弘夫: 尾瀬ヶ原の池溏地図と水生植物5種の分布消長
- 野原精一ほか: 尾瀬ヶ原池溏の水質と水生植物の一次生産
- 内藤俊彦ほか: 尾瀬のミズバショウ

田中 肇: 尾瀬の花の受粉生態学的研究—基礎データと保全に関する提言

このうち金井論文には尾瀬ヶ原池溏図が付いているが, 改めて作成することはほとんど不可能であろうと思われる労作である. 今後の変遷をぜひ追跡してほしいという金井先生の希望から, できるだけ多くの方にこの別刷を配布しておきたいとお申し出があった. 希望者は184-0013 東京都小金井市前原町5-8-7 金井弘夫様 宛に申し込まれたい. なお, 本冊は有償頒布(8,000円)されるが, 申込期限を過ぎているので残部の有無は不明である.

○加藤 真著『日本の渚—失われゆく海辺の自然—』(岩波新書, 1999年4月, 220p, 740円+税)

「河口—川と海が出会う場所」, 「干潟—満ち引きする大地」, 「藻場—海の中の草原」, 「砂浜—波が寄せる岸辺」, 「サンゴ礁—光合成共生の海」, 「ヒルギ林—海に浮かぶ森」, 「渚の保護のために」の7章から成る.

海辺の自然の原風景を幅広い文献と自身の体験に基づいてたどりながら, 渚が育んできた豊かな生物多様性と重要な生態的機能を紹介している. しかし, 豊かであった美しい渚の姿も人々に忘れられてゆく. 「傷だらけの渚を前にして, それでも希望は私たちの心の中に残されている」. そんな気持ちが伝わってくる海辺の自然の鎮魂と祈りの書と言えるであろうか. (角野康郎)